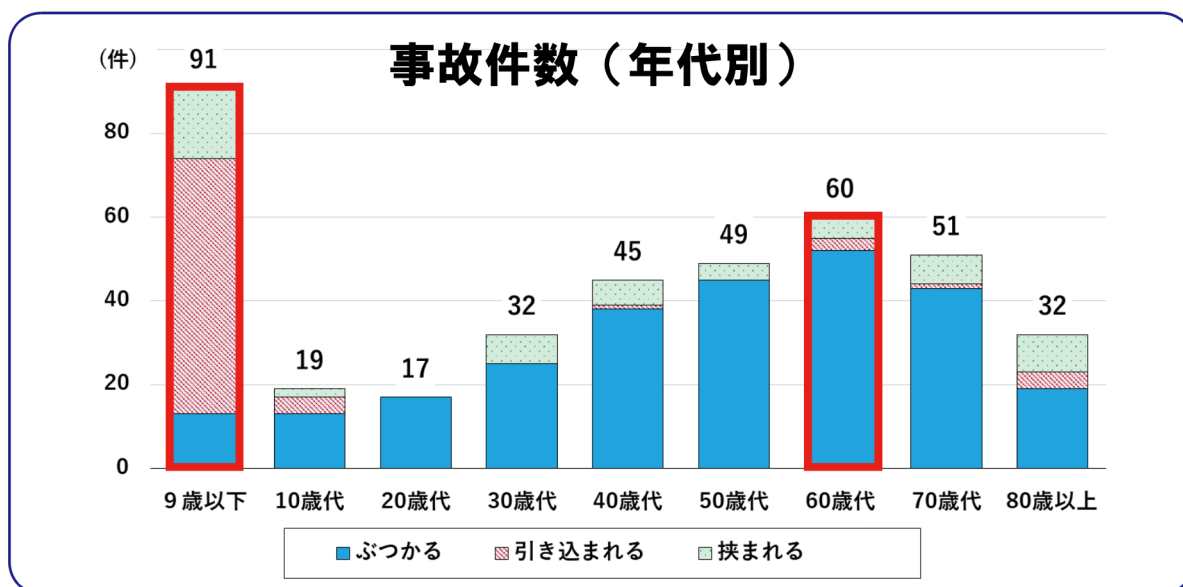


自動ドアを正しく利用しましょう！

～自動ドアを安全に利用するためのポイント～

消費者安全調査委員会「自動ドアによる事故」調査報告書から

事故は子どもと高齢者に多く発生しています



※全国自動ドア協会の事故情報（2015～2018年度）を調査委員会が独自に分析。

9歳以下の子どもに「引き込まれる」事故が多い

子どもがドアに手をつけているときに、通行者に反応して開くドアや集合玄関機
の操作により開くドアに、手を引き込まれる事故が発生している。

60歳代をピークにして「ぶつかる」事故が多い

ぶつかる事故が多く発生しているなか、高齢になると、閉まってくるドアにぶつかり
転倒して骨折に至る事故となるケースが多い。

自動ドアが動く仕組み

ドア上部に付いている起動センサーが人を検出してドアが開きます

- 人がセンサーの起動検出範囲（青線の領域）に入ると、ドアは開き始めます。

※常に適正な検出範囲が確保されているとは限りません。

- 人がセンサーの起動検出範囲にいないときには、開いたドアは、一定の時間が経つと閉まり始めます。

※一定の時間は、ドア毎の設定によって異なります。



自動ドアを安全に利用するために

「引き込まれる」事故の防止

●子どもがいたら一声かける！

子どもは、戸袋の近くで遊んだり、戸袋に手をついたりします

戸袋部に入っている

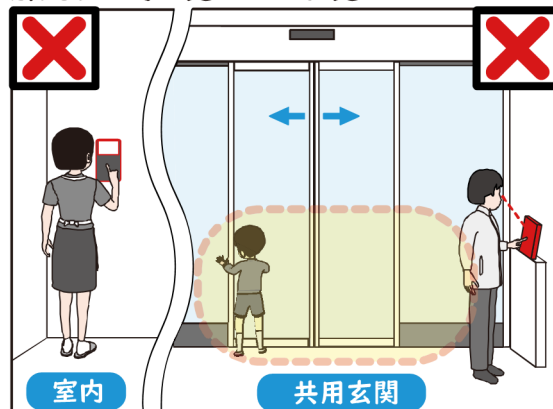


通行者を検知しドアが開く際に、ドア付近に子どもがいると引き込まれることがあります。

●集合玄関機の操作時は子どもの行動に注意！

子どもは、好奇心からガラス面に手をつけて、前方をのぞき込むなどの行動をします

解錠する時に見えない、見ていない



集合玄関機の解錠操作と同時にドアが開くことがあります。ドアを見ないで操作すると、子供がドアに引き込まれることがあります。

「ぶつかる」事故の防止

●駆け込まない！

自動ドアは、いつも自分に対して安全に作動するとの思い込みは危険です

駆け込んでいる

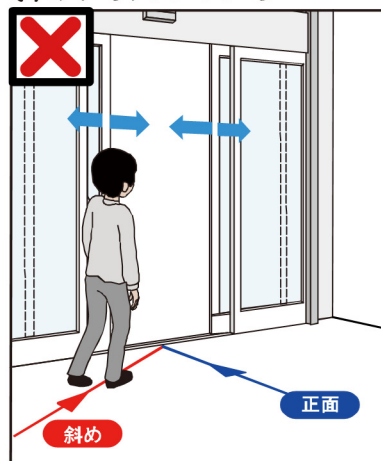


駆け込んで入るとセンサーの検出とドアの動きが間に合わず、ドアが開く前にぶつかったり、連続して通行する際には、ドアが閉じ始めてぶつかったりします。

●斜めや横から入らない！

ドアに斜めや横から入る場合と、正面から入る場合では、ドアの動きに違いがあります

斜めから入っている



ドアが開いていても、閉じていても、横や斜めの方向から入ると、センサーの検出とドアの動きが遅れてぶつかることがあります。

☆自動ドアによって動き方が違うので、ドアをよく見て通ることが重要です



消費者安全調査委員会

令和3年6月25日

https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/report/report_017/